【ドバイ 2019 世界パラ陸上競技選手権大会・第 1 日（11 月 7 日午後)】出場選手コメント

◆男子 100mT54　準決勝
・生馬　知季(WORLD-AC)
　一発の漕ぎ損じが悔やまれます。スタートがバタついたので、タイムに影響したのかなと思います。メンタルもあったのかな。あとは、日中と夜の気温のところで、うまくいかなかったところがあります。ちょっと悔しいです。日中（予選）のいい押し感がなかった。スタートは反応も良くていけるかと思ったが、スタートして 4 か 5 漕ぎ目で、左手が滑ってしまった。

◆女子 400mT13　決勝
・佐々木　真菜(東邦銀行)
　まずは、4 位という結果で、内定をいただけて、すごく嬉しい気持ちでいっぱいです。決勝では自分も 57 秒台を出す勢いで、スタートから思い切りいこうと思ったが、今回の決勝の出だしはなかなかうまくいかず、加速に乗りきらなかった。今後の課題。ただ、ラスト 100m はしっかり粘れてよかったと思う。

（6 レーンのフライングは？）
影響はなくて、どんな試合も当然、そういうことはあると思っているので、慌てず、自分のことだけに目を向けて試合に臨んだので、スタートがうまくいかなかったのは自分の反省です。

東京パラへの思い？
今まで支えてくださった人が大勢いて、テレビを中継していただき、テレビで観てくださっている人たちにいい結果で報告ができて、来年の東京パラでは、メダル獲得、そして金メダルを目指して、57 秒台、56 秒台に届くように頑張りたい。

福島への思いは？
地元では、野球とソフトが開催されるが、陸上では福島県出身選手はなかなか出たことがなく、内定をいただけたのは、自分の自信にもなりますし、これからもっと地域の方たちや支えてくださいる人たちに恩返しをしたい。

◆男子 1500mT11 予選

・和田　伸也(長瀬産業)

記録を狙って走らないと残れないと思っていたので、良かったです。レースプランは、1 組目の二人が、金メダルを争うと思ったので（ブラジル、ケニア）、そこに負けたとしても、記録で残れるように走ったら、日本記録につながったと思う。

・中田崇志ガイド

位置取りはプラン通りです。まず、スタートにブラジル選手の前に入って、結構押し合いで僕たちが勝って、後ろからぐっとあがってスピードがあがるので、そうすると、ケニアの選手が先に行ってくれて、そうすると終盤失速するので、全体を通して、私たちはイーブンでいって、前の二人が最初の 200m で（脚を）使って、勝負に持ち込めたかなと思う。いや～、よかったです。

・唐澤　剣也(群馬県社会福祉事業団)・茂木洋晃ガイド

できれば、タイムで拾われたかったが、そこは力の差が合ったかなと思う。首の皮一枚つながって、明日臨めるので、悔しい思いのリベンジをしたい。

途中スローペースになったが？

一組目が思ったより早い展開ではなかったので、チャンスだと思って、タイム狙いで行きました。スローペースになったときは、茂木君の判断で「前に出ましょう」ということで、前にでました。

・茂木洋晃ガイド

伴走してみていても、前の 3 人がすごく接近して走っていて、接触があったようだったので、少し距離を取りながら、ちょっと外側に出ながら、危なくない形で展開でのときに、ペースに乗って前に出られたので、そこはよかった。位置取りもうまくできていたと思う。

（コメント協力：星野恭子）